

日本福祉大学セクマイサークル  
にじぶく  
2026年5月15日

# 2025年度 協働事業報告





# 目次

1. 事業の概要
  2. 動画の撮影と放映について  
(動画の概要を含める)
  3. データで見る成果
  4. 今後の展望
-

# 事業の概要

## 【目的】

性の多様性に対する、幅広い年齢層への理解

## 【内容】

- 動画の撮影
  - Youtube、サロン、大学祭での放映
-

# 動画の放映について①Youtube

2月上旬にYoutubeにアップロード

---

# 動画の撮影について

## ① 日傘

- 暑さ対策として日傘を使い始めた主人公の男性は、「男なのに変ではないか」という周囲の自分の中の固定観念に悩むが、同僚の理解によってその考えが揺らぎ始める。
- 上司からの指摘をきっかけに性別に対する無意識の偏見が浮き彫りになる一方で、同僚の擁護や気付きによって「男性が日傘を使うのはおかしくない」という認識が広がっていく。
- 最終的に上司も日傘を使い始め、全員が性別に捉われない価値観を再認識する。「男っぽい・女っぽい」という固定観念を見直し、多様性を尊重する大切さを伝える。



# 動画の撮影について

## ②ハートフル

- ピンクのスマホケースを見て「女の子っぽい」と指摘され、無意識にあった性別の固定観念が表れる。
- 別の友人が「そんなことない」と擁護することで場が和み、性別に捉われない価値観に気付くきっかけとなる。
- その後、自分の思い込みに気付いた友人がそれを認めて伝え合い、理解しようとすることの大切さや分かり合える未来への可能性を伝える。



# 動画の撮影について

## ③アウティング

- 母に「女の子が好き」とカミングした主人公は、一度は受け止めてもらえたように感じるが、後に母がその事実を他人に話してしまう。
- その話を聞いた知り合いから直接触れられ、本人の知らないところで共有されていたことに気付き、大きなショックを受ける。
- 性的指向や性自認を他人に伝える「アウティング」の問題と、相手の気持ちや信頼を尊重して受け止めることの大切さを伝える。



# 動画の撮影について

## ④STOP偏見！

- カメラを持った人が、公園で友達や異性のカップルは撮らないのに、ゲイカップルだけを珍しさから撮影し、無意識の偏見や好奇の目が表れる。
- その様子に気付いた人物が撮影者を追いかけて、街中を駆け回る。
- 最後に撮影者が捕まり、「STOP偏見」とともに愛の形や性的指向は多様で自由であることの大切さを伝える。



# 動画の放映について②サロン

- 参加者 約50人

- 参加者の声

「プライバシーにかかわる話を

みだりにしないようにしたい」

「ジェンダーのことを理解できた」

# データでみる成果

- Youtubeの再生回数

213 + 159 + 179 + 264 = 計815回

- サロンでの放映回数 1回

---

# 今後の展望

## 1. 啓発動画の上映

各種イベント、高齢者向けサロンでのプチ講座

## 2. 産業まつりでのブース展開

パネル作成、動画の上映、リーフレット作成

---